

商業簿記

次の資料に基づいて、三分法による精算表（一部）を作成しなさい。
 売上原価は仕入勘定で計算する。なお、棚卸減耗損及び商品評価損は売上原価に算入しない。

（資料）

期首商品棚卸高	200個	単価（原価）	60円
当期商品仕入高	400個	単価（原価）	63円
期末商品棚卸高	250個	単価（原価）	63円

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸方
繰越商品								
仕 入								
棚卸減耗損								
商品評価損								

商業簿記 ②

前の資料①に次を追加する。

(資料)

期末商品帳簿棚卸高 250個 単価(原価) 63円

期末商品実地棚卸高 240個

品質低下品 20個 単価(正味売却価額) 40円

良 品 220個 単価(正味売却価額) 58円

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
繰越商品								
仕 入								
棚卸減耗損								
商品評価損								

工業簿記

当工場では、材料はすべて掛けて仕入れ、材料勘定には実際購入原価で受入記帳をしている。
下記の当月の材料記録にもとづいて、

(1) 棚卸減耗の計上に関する仕訳を示すとともに、(2) 材料勘定の記入を行いなさい。

1. 当工場ではA材料を主要材料として使用しており、予定消費単価200円/Kgを用いて消費額を計算している。

2. 月初有高、当月購入高に関する資料

	月初有高		当月購入高	
	数 量	実際価格	数 量	実際価格
A材料	1,000Kg	199円/kg	9,000Kg	207円/Kg

3. A材料の実際消費量は継続記録法により把握しており、当月の製造指図書別の実際出庫量は下記のとおりである。なお、実際消費価格は先入先出法によって計算する。

A材料の月末実地棚卸数量は1,950Kgであり、棚卸差額は正常な差額であった。

	#101	#102	#103	#104	#105	合計
材料出庫量	1,200Kg	1,800Kg	2,400Kg	1,850Kg	750Kg	8,000Kg

(1) 棚卸減耗の計上に関する仕訳を示すとともに、

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

(2) 材料勘定の記入を行いなさい。

材 料

[illegible]